

第 1 回 MIP キャリアパスセミナー『新時代のキャリア形成相談会』開催報告

本セミナーは、将来への様々な不安や悩みを抱える、あるいは色々な選択肢の情報収集をしたい学生さん・若手研究者を対象に、今後のキャリア選択を考える機会としていただくことを目的としています。

第一部では多様な経歴を有する講師の先生方からご講演いただき、第二部では講演者と参加者との個別相談会を実施いたしました。講師陣のキャリアにおける多岐に渡る進路選択のポイントを共有いただくことで、参加していただいた方々の幅広いキャリアの選択肢を共に考える機会となりました。

以下、聴講生でありメディカルイノベーション大学院プログラム履修生の修士 2 年前田貴広さんより受講後感想を寄せていただきました。

■ ご講演内容

澤田武志先生は、腫瘍内科での臨床経験・国立がんセンター研究所での研究経験を積まれた後、MSD にてオンコロジー領域の医薬品開発に従事された経験を持たれております。海外で臨床・基礎研究を経験した後に、医療機器メーカー・製薬企業・CRO など製薬業界に転職する MD の方は多く、澤田先生も外資系メガファーマである MSD に就職されました。U.S. では医師が製薬業界で働く、というキャリア選択が決して珍しいものではない一方で、日本では未だ製薬企業でのキャリアパスを歩む医師が決しえ多くないという実感をお持ちであり、製薬業界で働くことへのイメージを膨らませることを目的としてご講演いただきました。

中でも、先生が MSD に入社された際には、社長から“Welcome to the dark side” というメッセージが送られたというお話が印象的でした。製薬企業での医薬品開発は、サイエンスだけでなくビジネスの側面など多角的な視点を持つことを求められるということを実感されました。医薬品開発の仕事を通して、医薬品を創出するだけでなく、医薬品のデータを世の中に還元できるということもやりがいを感じられていました。

講演の最後には、労働人口が減少する中で、働ける人は働いてほしいというメッセージを頂きました。

出口雄一先生は、京都大学大学院生命科学研究科修士課程をご卒業後、スイスに研究留学されて Ph.D を取得された経歴をお持ちです。その後、帰国されて京都大学や長崎大学で研究を続けられ、現在は塩野義製薬で企業研究に従事されております。

様々な環境で研究を行われる中で、出口先生が大切にされていた信念は「自身が携わっている研究には必死に取り組み成果として形にする」ということです。キャリアを歩む中で、アカデミア・企業問わず研究は信頼のもと成り立つ世界であると実感されました。そして、実績を積み上げることで周囲の人々との信頼関係を築くことができ、仕事を任せてもらえるようになるということを感じられてきました。

留学生活の中で、異文化に触れる経験は大変貴重であったと述べられており、フットワークが軽い若いうちに海外へ留学することを薦められていました。また、「サイエンスは culture も含んでいる」という話し

が印象的でした。グローバルな研究環境の中で、わからないことを見つけよう、という mind が生活に根付いていることを実感されました。

講演の最後には、先生自身が「未だキャリアを模索中、つまり成長中です」と述べられていました。キャリア選択は研究と似ていて、「人生の大きな目標（仮説）を持ちすぎると、目の前に広がる面白い可能性を見落とす可能性がある」というお言葉は、大変印象に残っています。

キャリアの中で選択の場面は今後多々訪れますが、研究者としての軸を持ち続け、その都度多様な可能性にアンテナを張り続けることが大切であると感じました。

鈴木忍先生は、大阪大学薬学部ご卒業後、北米に7年間滞在され、再び日本で免疫研究に従事されました。鈴木先生は日米様々な研究室に所属され、企業で研究者としての経歴もお持ちであり、多様なキャリアを歩まれてきました。

トロントでの研究生生活の中で、EMSA という実験系を極め、所内で“EMSA QUEEN”と呼ばれる存在となった鈴木先生。時には、研究所外の実験を手伝う機会もあったと述べられていました。このような形で交友を持った研究者達が、後に自身の研究の相談・協力に尽力してくれたというご経験から、「他人のために頑張ると自分に返ってくる」ということを実感されました。

企業に入社するきっかけとなったのは、当時着目されていた IRAK-4 という分子を創薬に繋げようと尽力されたものの結果的に実現に至らなかった、というご経験です。先生自身が製薬企業に入社し、創薬の流れを知ることがその解決のヒントになるのではないかというお考えから日本シェーリングに入社されました。企業研究者として取り組んだ仕事は完遂し、論文という形として成果を残すということを徹底されました。

キャリアを振り返って、「来てほしい、といってくれた場所が自分の天職であり居場所である」というお言葉が胸に刺さりました。明確な目標を持っていなかったという高校生時代から、キャリアの中で常に必死に目の前の仕事に従事され、周囲からの信用・信頼を獲得し、多種多様な職務の変化にも対応できる柔軟性を身につけられたことが、先生を現在の「居場所」に導いているのだと感じました。

最後に、先生自身もまだまだキャリアの途上であり、自身が限界を設けない限り、可能性は無限大に広がっているというお話しをしていただきました。キャリアは選択の連続ですが、自身で壁を設けるのではなく大きな野望を持ち続けたい、と感じました。

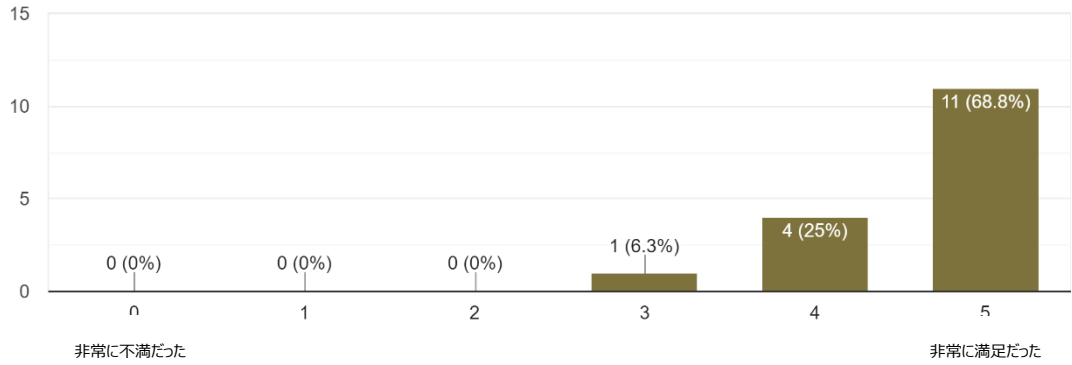
■ 開催概要

- 開催期間：2022年6月21日
- 開催場所：医学研究科メディカルイノベーションセンター棟1Fセミナー室（ハイブリッド）
- 参加者数：44名（参加登録者数）

■ アンケート調査概要

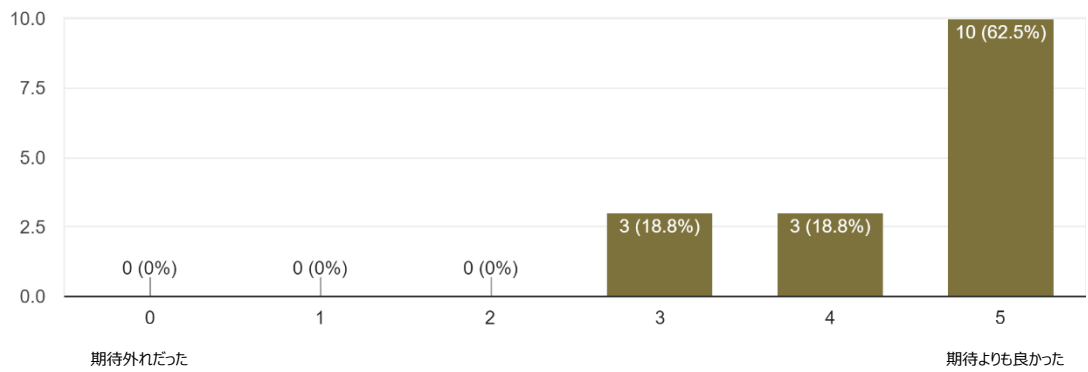
【第1部セミナーについて】ご自身の満足度

16件の回答



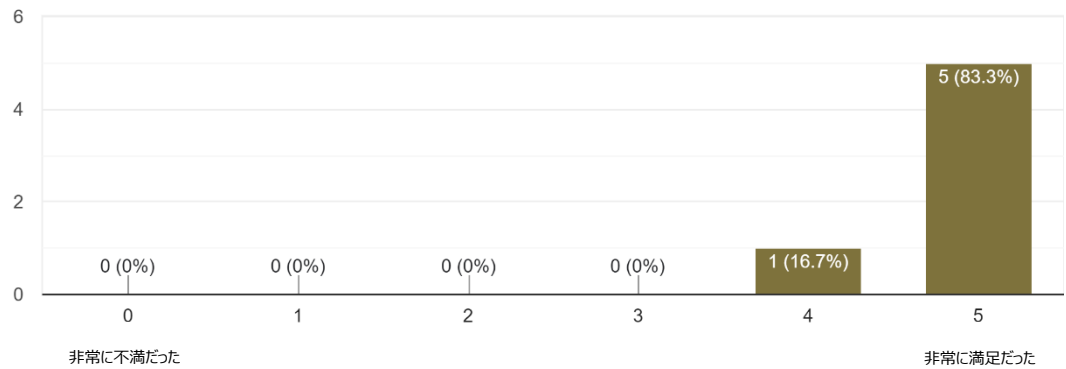
【第1部セミナーについて】参加後の印象を教えてください。

16件の回答



【第2部個別相談会について】ご自身の満足度

6件の回答



【本日の講演で特に興味をひかれた内容】

- やり通す力、様々な人との出会い、チャンスを活かす力が大切だと思いました
- 新しい考え方を知ることができ、とても有意義な時間になりました。キャリアはずっと発展途上で終わりはないということで、社会に出てからもファーストキャリアに甘んじることなく自分の気持ち次第でいかようにも挑戦できることを実感しました。
- 企業とアカデミアの両方を経験されている貴重なお話をお聞きすることができて、大変貴重な機会でした。

【ご意見等】

- たいへん良い企画だと思いました。録画をオンデマンドで見えて貰って、個別相談会に参加してもらう反転授業形式のキャリアセミナー開催もアリかなと思います。
- 今後もこのような機会があれば、是非参加させていただこうと思います。